

さらなる安全性向上に向けて

弊社は、2005年4月25日に発生させた福知山線列車事故の重大性を受け止め、「安全性向上の取り組み」を経営の最重要課題とし、具体的な実行計画を立てて、さまざまな取り組みを進めています。

「安全考動計画2017」の最終年度である2017年度においても、達成すべき状態として掲げた数値目標の実現に向け、「安全・安定輸送を実現するための弛まぬ努力」「リスクアセスメントのレベルアップ」「安全意識の向上と人命最優先の考動」「安全投資」の4つの柱にグループ全体で取り組みました。

本計画の5年間で振り返りますと、到達目標に向けて各職場がさまざまな工夫を行い、具体的な取り組みが進むなどの効果が見られました。これにより、「お客様が死傷する列車事故ゼロ」を実現するとともに「踏切障害事故4割減」を達成することができました。また「ホームにおける鉄道人身障害事故3割減」「部内原因による輸送障害5割減」についても発生件数を減少させることができましたが、目標達成には至りませんでした。

一方で、「死亡に至る鉄道労災ゼロ」については、この間に2名の尊い命が失われました。さらには、2017年12月11日、新幹線の安全性に対する信頼を大きく損なう重大インシデントを発生させました。新幹線の運行を脅かす台車の亀裂を発見できず、また異常を感じたにもかかわらず運行を継続させたことについて、極めて重大な問題と受け止めています。

2018年度は、これまでの計画において積み重ねてきた取り組みを着実に引き継ぐとともに、福知山線列車事故の反省と新幹線における重大インシデントを踏まえた新たな安全に関する5カ年計画である「JR西日本グループ鉄道安全考動計画2022」をスタートさせました。

この計画では、「組織の安全管理の充実」と「安全最優先の意識の浸透」に注力します。とりわけ、直面する状況においては、お客様や仲間の安全を確保するために、一人ひとりがいったん立ち止まって「リスクを具体的に考える」ことからスタートし、何よりも安全を優先する判断や行動を実践していきます。あわせて、「お客様が死傷する列車事故ゼロ」「死亡に至る鉄道労災ゼロ」を改めて目標とするとともに、「お客様が死傷する鉄道人身障害事故」「踏切障害事故」「部内原因による輸送障害」についても更なる削減をめざします。

また本年度に入り、山陽新幹線で人と列車が接触した際、早期に列車を止めることができなかった事象や、大阪北部地震で長時間にわたり列車の運転を見合わせ、お客様に多大なご迷惑をおかけした事象を発生させました。これらの事象を受けての課題に取り組むとともに、「平成30年7月豪雨」による長期間の運転見合わせが発生している線区についても、行政機関や地域の皆様と連携し、早期の復旧に努めていきます。

私たちの安全の取り組みに終わりはありません。「福知山線列車事故のような事故を二度と発生させない」という変わらぬ決意のもと、JR西日本グループ全員が不断の努力を着実に積み重ねるとともに、安全を追求するために、あらゆる角度から鉄道システム全般にわたって改善を図っていきます。私自身がその先頭に立って取り組んでいく所存です。

本報告書は、弊社のさまざまな安全の取り組みについて、お客様や地域の皆様にご理解いただけるよう工夫して作成いたしました。ぜひご高覧いただくとともに、ご意見やご助言を賜れば幸いです。

代表取締役社長

来島達夫

